

最初のお話をします。

今年の夏は、オリンピックが開かれました。多くの競技が行われまして、選手たちが一生懸命に取り組んでいる様子はとても感動的でありました。皆さんも、テレビやニュースでその活躍を見たことだろうと思います。

私は、選手たちの躍動する姿を見て、スポーツのお祭りとと言われるオリンピックについてもっと知りたくまりました。いろいろ調べてみましたので、それをこれから紹介したいと思えます。

オリンピックの始まりは、紀元前九世紀頃とされています。その由来となった物語が伝えられています。その物語に出てくる人物に深い敬意を示すために行われるようになったと言われています。競技も、最初は走るのみだったそうです。そして、オリンピックが開かれていた間は、戦争中であってもそれを中断したと言われています。なぜなら、オリンピックには深い敬意が伴っていたからであります。

ところが、その後、オリンピックは行われなくなってしまう。すなわち、最初は限られた地域の祭典であったオリンピックは、多くの地域が参加するようになって、その性格を変えていきます。そして、その後のローマ帝国の台頭は、オリンピックを維持することを困難にしています。

その後、オリンピックが復活したのは、およそ千五百年たってからのことあります。ある人物の努力によりまして、昔のオリンピックと

同じ場所で開かれることになりました。そして、これを機に、オリンピックは、新たなスポーツの祭典として認められるようになったのであります。

今では、世界の様々な国で開催されるようになっていきます。そして、競技の数も増えてきています。参加する国の数も増えていきますし、参加者の数も大変多くなっています。

ところで、オリンピックには、時代とともに新しい競技が加わっています。時代を反映した新たな競技が採用されるケースもよく目にするようになりました。また、開催地で人気のある競技が選ばれることもあります。その地域ならではの競技に注目するのも面白いかもしれせん。

オリンピックの開催地に選ばれますと、その地域も大きく変化します。特に、会場でありますとか様々な施設は、新たに整備するものもありますが、現在使われている施設をそのまま活用することもあります。例えば、文化財となっているような施設であります。これらを使うことで、その地域のよさをアピールしようということだと思えます。

さて、今回のオリンピックも大いに盛り上がりました。スポーツを通じて世界の人たちが交流することは、平和な世の中だからこそ実現できることあります。私は、次のオリンピックに向けて、こうした雰囲気さらに高まってくことを期待したいと思えます。

次のテーマに移ります。

皆さんは、学生時代、いろいろなルールが定められていたという経験をお持ちだと思います。それぞれの学校で決められているこれらのルールは、一般に校則というふうに呼ばれています。

では、校則は何のためにあるのでしょうか。私たちが社会の中で生活するとき、一定のルールが必要なことは言うまでもありません。学校で身近なことを通じてルールを守ることの大切さを学ぶことは、いずれ社会に出ていく上でもとても重要なことだと思います。校則には、このような役割があるのではないかと思います。

さて、日本で最初の校則と言われているものには、学校生活を送る上で当たり前のことが決められていました。例えば、授業中はおしゃべりをしてはいけないということでありますとか、本は丁寧に扱うといったものであります。これらは、今の時代においても十分に通用するものだと思います。

ところが、近年、一般的に考えておかしいと思うような校則が問題となつていきます。例えば、髪の色は黒くなければいけないでありますとか、特定の髪型を禁止するというようなものであります。ほかに、冬でもコートなどを着てはいけないといったものもあります。さらには、制服や持ち物について、先生たちが厳しくチェックするということも行われているのであります。

このような校則は、生徒たちの健康や心の問題にも影響を及ぼすおそれがあります。

では、なぜそのような校則ができたのであり

ましようか。その背景について考えてみたいと思います。

随分前のことになりましたが、荒れる学校ということが問題になった時代がありました。子供たちが教室の窓ガラスを割ったり教師に暴力を振るったりということが各地で起こりました。それに対処するという目的で、厳しい校則ができていったのではないかと言われています。

その後、状況が落ち着いていくにつれて、校則も変化していきました。しかし、生活上の細かなことに関する内容は、逆に増えていったとも言われています。

今は個性や多様性が尊重される時代になりました。それに伴いまして、このような校則を見直そうという動きも出てきているようであります。例えば、ある学校では、校則について生徒たちが自ら考える場を設けています。そこで意見が出れば、学校に見直しを求めます。その結果、校則が変更されることもあるようであります。

このように、自分たちの手でよりよいものにしていくという動きも出てきているのであります。また、学校の中だけではなく、保護者でありますとか地域の人たちにも考えてもらおうという取組もあります。

これからも、時代の流れとともに、学校を取り巻く環境でありますとか生徒たちの置かれた状況は変化していきます。校則についても、それを踏まえて見直す必要があるのではないのでしょうか。私は、生徒一人一人が校則を自分た

ちのものとして考えられるようになればよいと思っております。

最後に、アンケートに関するお話をしたいと思います。

アンケートといいますが、以前は紙で行っていました。しかし、最近は、パソコンなどで手軽に作れるようになりました。先日、私は、ある団体の意見を聞くためにアンケートを作りました。ところが、思ったほど回答が集まらなかったものであります。簡単に作れるようになったからといって、たくさんさんの回答が来るものではないことが分かりました。

そこで、次はより多くの人に答えてもらえるように、その作り方を調べてみました。そのことについて、これから述べてみたいと思います。まずは、計画を立てます。いきなり聞きたいことを考えるのではなくて、その目的を明らかにするのであります。そうしますと、何のためにとどのような情報が欲しいかということが分かります。また、その対象になる人がどんな人か、またどのようなことを聞けばよいかも分かってくるのであります。

次に、質問の内容を決めていきます。まず、聞きたいことを全て挙げてみます。そして、その数を絞り込みます。回答する人が途中でやめてしまわないように、できるだけその数を少なくしていくのであります。

続いて、アンケートの流れを組み立てます。一般的な順番としましては、大まかなものから具体的なものへと進んでいきます。そういう点

に気をつけながら質問を分けていきます。それが終わりましたら、どのような順番で聞けばよいかについて考えます。これを行うことで効果的な回答が得られやすくなるのであります。

それから、回答方法を決めていきます。例えば、選択肢を用意して、その中から選んでもらうという方法があります。また、幅広い意見や感想を集めたいときには、自由な回答を書いてもらうという方法もあります。

最後に、質問を完成させます。ここで注意したいのは、できるだけ簡単な言葉を使うということであります。そして、なるべく短い文にすることも大切であります。長い文にしてしましますと、回答する人が混乱して、必要な情報が得られないこともあるのであります。

全てが出来上がりましたら、全体の体裁を整えていきます。例えば、アンケートを始める前にその目的などを示しますと、回答する人が安心します。また、回答時間の目安なども示しておくことと親切かもしれません。そのほか、個人情報の取扱いについて触れることも忘れてはならない点であります。この点を明らかにしておきますと、信頼度も上がります。

このように、効果的なアンケートを作るためには注意すべきことがたくさんあります。以上のことを踏まえまして、次回はいよいよアンケートを作りたいと思います。皆さんも、参考してみてくださいいかがでしょうか。(了)